がんばってます サークル紹介 ⑥

元気に走って シュート！

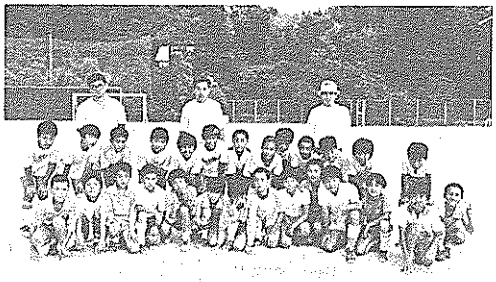
～北陵少年サッカーチーム～

県下でも、トップレベルの南国市の少年サッカー、北に北陵チーム、南に三和チームがあり、県代表としてたびたび全国大会へも出場しています。今日は、北陵少年サッカーチームを訪問。

八年前に生まれたこのチームは、試合できる最低の八名でスタートし、最初の試合では、一点も取れず大敗だったそうです。それが現在、部員は八十名と増え、県下では実力№1と言われるように成長しました。

初めから、チームの面倒をみてきた岡崎章夫さんは、「チームを作って三年目、野市町で四国大会が行われ出場したときに、応援の父兄が誰もいなかったのは、とても淋しかったです。しかしそれからは父兄のかたも理解し協力していただき、現在のような大世帯にまでなりました。何よりの楽しみは、教えた子どもたちが明るく素直に育ってくれることです。」と、子どもたちの成長が、我が子のようにうれしいようすでした。

選手の中には、奈路や白木谷からやってくる子もおり、昔は送り迎えで一時間半もかかったそうです。そのため今では、十人乗りのバスを用意して、送り迎えや遠征にと活用しています。



全国大会の出場も決った北陵チーム

大きな声で指導する岡崎さんと、しかられながら、励まされながら、元気にボールを追いかける子どもたちの姿が、何ともさわやかなふんい気でした。

部員のかたの一言

○試合をして、他のチームと友だちになれるのが楽しい。

（白木谷小六年　中田達也君）

○いろいろなところに行けて楽しい。監督は、こわくはないけど、まあまあだね。

（奈路小六年　竹内正水君）

○短距離はだめだけど、長距離は早くなって、この前は三位だった。

（久礼田小五年　岡林ひろし君）

○みんなと友だちになれると思って入った。

（岡豊小五年　田島健一君）

なお、七月四日の県予選で北陵Aチームが優勝、全国大会出場が決まりました。皆さん、応援してください。

文化財をたずねて⑩

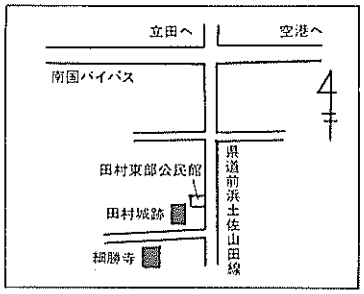
《田村城跡》

土佐の守護代細川氏の城館は、田村土居を中心として五㌶の広大な地に築かれていたが、今はわずかに城八幡宮が残っているのみである。

康暦二年（一三八〇）ごろ、細川氏の一族頼益がこの地に入り、守護代館を設けた。それから頼益、満益、持益、勝益と四代続いて、土佐を守護領国とするために働いたが、勝益は応仁の乱ぼっ発のため京都に走り、その子政益、国益が永正四年（一五〇七）に京都に退転するまで、約一世紀半その職に尽くしたのである。

細勝寺はもと桂昌寺といい、細川勝益が、頼益の冥福を祈って建てた日蓮宗の寺院であるが、長宗我部元親が浦戸へ移ったとき、種崎へ移され、田村の桂昌寺の跡には、細勝寺が建てられた。これは五代将軍綱吉の生母が、桂昌院といったので、それをはばかって細勝寺と改めた。現在寺には、頼益の墓と、細川角田系図が残っている。

細川頼益の墓（細勝寺）

田村城には、市場集落が発達していたものと思われる。城館の南部東に接して、字市場の名があり、その南に市場前の地名が残り、また商業と関係の深いエビス堂の遺構もある。

守護代細川氏は、よく京都との往来があり、文人としても活躍したため、田村市は、文化面でも消費面でも程度が高く、取引きも盛んに行われ堺商人の出入りもあったと思われる。